

⑯ 日本国特許庁 (JP) ⑯ 特許出願公開
 ⑰ 公開特許公報 (A) 昭58—130040

⑮ Int. Cl.³
 A 61 F 15/02

識別記号 廷内整理番号
 7033—4C

⑯ 公開 昭和58年(1983)8月3日

発明の数 1
 審査請求 有

(全 2 頁)

⑭ ギブスカッター

⑮ 特 願 昭57—13727
 ⑯ 出 願 昭57(1982)1月29日
 ⑰ 発明者 上田清

大阪市東淀川区豊里2丁目1番
 6—205

⑮ 出願人 上田清
 大阪市東淀川区豊里2丁目1番
 6—205

明細書

1. 発明の名称

ギブスカッター

2. 特許請求の範囲

鋭角な刃部を付けた盛り込み部(4)体に刃巾を設け受部(4)体の中央に同様刃巾の溝(3)を設け A-B の交錯によって切り取られたギブスはその溝を通じて上外部に切り出すことを特徴とするギブスカッター。

3. 発明の詳細な説明

医療機関に於て骨折に因る患部の矯正を終りギブスに依って患部の保護に努め適時接骨の状態に応じてギブスカットを行う時現在の医療機関、病院等に於て使用される器具には一般工具用のグラインダーガンに依ってカット作業が行はれこれによつて病院内は騒音に悩まされ又患者にとっては恐怖感を覚え作業中はその附近一帯に白い粉塵の浮遊物が多く医学上の見地からしても音、浮遊物、患者の恐怖感等を排除しなければならないものとしてギブスカッターを発明したものであるギブス

カッターの使用によって静かな病院が出来るであろう。

発明者は成る時小急ぎの用件のため小走り中足を踏みはづし転倒した時手首を物体に強打し骨折しよく見るとその部で擦れ違っているのを発見し骨は折れたものでなく盛り落とされたように直感したこの切れ方は鉄類の切断に用ひられる冷鉄盤の力学を引用した切れ方であつて当時の動作を思ひ返しては冷鉄盤の威力を感じ至急病院に駆け込み処置を受け数日後にギブスカットが行はれる時グラインダーガンを使用されたので不安を感じ再び冷鉄盤の作用をギブスカッターに取り入れ試作研究を続けた結果出願したものである。

本カッターは鉄式で冷鉄盤の重要な力学を引用したもので図(1)と(2)の交錯によって(3)の溝部からギブスの切り取られたものがウドン状を呈し乍ら切り出されるのであるギブスの様に固いものは第3図(A)の両切歯部と(B2)の刃部の強力なる盛込みによって容易に切り取ることが出来る切歯部を強くするため(1)の A 面中央部から切歯近くまでラ

状の座みを設けることにより墨れ度合を良くする。

第4図分離バネはギブスの内面に付けてある絵花を無い分けギブスの墨り取り作業を助けるものでスプリングとして使用し取付部の穴は第2図(5)に示す右と左の位置を約4mm前後して設けこれで第4図スプリング(5)の部を押入する又スプリング(4)の部は左右誤差20~30度位に曲げておけば自動スプリングとなり常に回体を軽く押えギブスと絵花の中間を分離し乍ら先行するもので切り離し作業を容易ならしめるものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図 斜面図

第2図 A体側面図

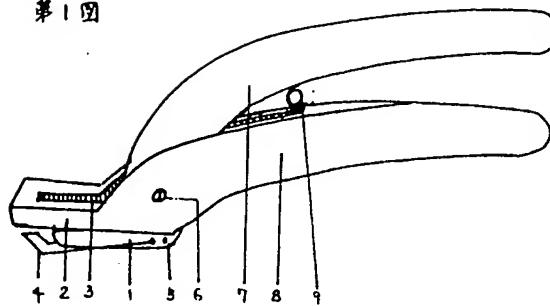
第3図 墨刃部断面図

第4図 スプリング側面図

A…墨刃 B…台刃 1…切込み 2…受刃
3…切り出し溝 4…バネ本体 5…バネ固定
6…軸ナット 7…握柄A 8…握柄B 9…バネ

特許出願人 上田清

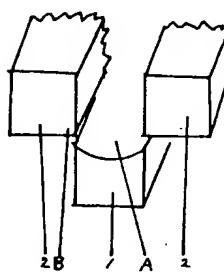
第1図



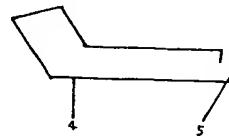
第2図



第3図



第4図



BEST AVAILABLE COPY